

人物風土記

○…「家族の介護の定義を変える本。介護は我慢しなくていい。親も子どもが辞職するのは望ん

○：「家族の介護の定義を変える本。介護は我慢しなくていい。親も子どもが辞職するのは望んでいません」。自身が介の会社に介護職員としてホーム紹介サービスや外資系コンサルタント会社を経て、26歳で市内外に福祉施設を運営する父親の会社に介護職員として入職。「伊勢原の人は家族を大事にするため、ヘルパーに頼らず親の面倒を家族で見ていく。そのストレスを抱え込んで

「そんな人を見てきた」。
そんな現状をなんとかし
たくて2014年にNPO
法人「となりのかい」
を立ち上げた。自身の経
験をもとにプロに任せ頼
ることで、"無理しない
介護"の普及活動を行つ
ている。

〇7年に結婚を機に伊勢原へ。妻と2人の子どもとの4人家族。休日は家族サービスやショギングでリフレッシュ。「ダイエットのために走り出した。最近は忙しくなかなか走れないが、大山に向かって走っている」と微

でいません」。自身が介護職員として体験した介護の現場から学んだ事例をもとに、土官ヒトミが

の会社に介護職員として 分ストレスを抱え込んで

○平塚生まれ。20

無理しない介護の普及へ

こともあり、体を動かすことで体調を整えるのが自分流の健康法だ。

両立するためのノウハウ
本をこのほど出版した。
○…介護に关心を持つたのは高校2年の時。体操部の練習中に手首を骨折し、腰の骨を移植する大けがに見舞われた。「車いす生活で、介護のありがたさを実感した」。「人のためになることを」と介護を学ぶため上智大学の社会福祉学科へ。老人

A color portrait of a middle-aged man with dark hair and glasses, smiling broadly. He is wearing a white shirt and a dark pinstripe suit jacket. The background is blurred green foliage.

- 『もし明日、親が倒れても仕事を辞めずにすむ方法』を出版した

川内 潤さん

東大竹在住 37歳

○…「介護の現場では虐待などの深い問題もある。講演では話を聞いて楽になつたとの言葉も頂く。今後も悩める人のためになるように活動していきたい。現場で学んだ多くを社会に還元し、いざれ恩返しできれば」。介護の現場を知るプロとして誰も傷つかない介護を目指していく。